

# 特集

## スターウィーク & 小学校での星空教室

### ～学生による世界天文年 その4～

岡村美希（瀬戸内アストロリーグ加盟:高知大学星の会）

#### 1. はじめに

私は高知大学の「天文系サークル星の会」に所属しています。サークルの目的としては自分たちが楽しむことが主体なのですが、天文普及につながるイベントなども行っています。2009年は世界天文年ということで、例年よりも天文普及活動に力を入れました。今回は8月のスターウィークと、11月に行った小学校での星空教室について報告したいと思います。

#### 2. 活動報告

##### 2.1 スターウィーク

星の会では、毎年スターウィークの期間に合わせてイベントを行っています。2009年は8/3~7の5日間、19:00~21:00に行いました。大学のグラウンドに来てくれたお客さんに、観望などの企画スペースを自由に回ってもらう形式をとっています(図1)。雨や晴れ間のない曇りの場合は中止ですが、暗くなって星が出てくるまでの時間や、晴れ間を待つ時間も楽しんでもらえるよう、観望以外の企画もいくつか用意しました。スライドショー(2009年は「流星群」と「天の川」の2つを用意)、クイズ、月の満ち欠けを模型で説明するもの、惑星の動き方を解説するもの、の4つです。これらの企画も、天文の知識を伝えるのに役に立っているようです。

2009年は梅雨明けが遅かったこともあり、あまり天候には恵まれませんでした。しかし最終日は見事に晴れ、お客さんもたくさん来てくれました。晴れるとたくさん来てくれたということは、それだけ実際の星を見てみた

い、望遠鏡で星を見てみたい、という人がいるということだと思います。昨年も来たという人もいるようで、それなりに期待されているのかもしれない、と感じます。

また、アンケートに「各シーズンでやってほしい」「冬にもやってほしい」というような要望もありました。星の会で行っているイベントのなかで、一般の人も交えた観望会というのは毎年8月のスターウィークのみです。恒星の位置が変わることはないので、イベントの時期が同じなら見える星も毎年似たようなものになります。他の季節の星も見てみたい、という要望があるのは当然のことだと思います。できることならもっと観望会の機会を増やしたいと思うのですが、様々な事情で難しいのが現状です。



図1 観望の風景

##### 2.2 小学校での星空教室

次に、11月23日に行った、高知県吾川郡いの町立枝川小学校での星空教室について報告します。この企画の発案者は、当時の星の会副会長の一丸さんですが、星の会メンバーはもちろん、校長先生をはじめとした枝川小学校の方々、それから高知工科大学の天文部「Space.Lab」の野村さんの協力を得て実現させることができました。

この星空教室では事前に参加者を募りまし

た。児童・保護者含め 50 名程の応募がありましたが、インフルエンザの流行もあり、実際に参加してくれたのは 30 名程でした。

星空教室の流れを表 1 にまとめてみました。

表 1 星空教室の流れ

A	B	C	D
星座早見盤の使い方の解説			
天文に関する基礎知識の解説			
観望		プラネ	劇
		劇	プラネ
プラネ	劇	観望	
劇	プラネ		
クイズ			

最初の 30 分程は全体でスライドを用いた解説をしました。受付の際に配布した星座早見盤を観望で実際に使えるよう、使い方を教えるとともに、恒星や惑星など、天文に関する基本的な事項も解説しました(図 2)。

それから参加者を 4 つのグループ (A~D) に分け、それぞれ 20 分を目安に各企画スペースを回りました。観望では月や木星を中心に、夏から冬までの代表的な星を見せました。プラネタリウムは「Space.Lab」による手作りのもので、野村さんに解説をお願いしました。劇では、星座となったアンドロメダやカシオペアなどが登場する、エチオピア王家の神話を上演しました。

そして最後の 30~40 分で、復習を兼ねたクイズを行いました。企画のなかで扱ったことを、最後に楽しく復習することで、子供たちの理解も深まったのではないかと思います。

アンケートの結果を見ても、「よくわかった」「もっと他の星も見してみたい」「またやってほしい」という意見が多くみられ、星についての興味を深める事が出来たと考えられます。そして、子供も大人も関係なく、参加者の皆さんがそれぞれ楽しんでくれ、満足してくれたということが、なによりもこのイベン

トが有意義であったという証拠であると思います。まだまだ力不足な点もありましたが、結果として、満足のいくイベントになりました。次の機会があれば是非、枝川小学校、またその他の場所でも、星空教室を開きたいと思っています。



図 2 早見盤の解説の様子

### 3. まとめ

高知県にはいくつかの天文台はありますが、科学館はなく、プラネタリウムを見ることができない施設もありません。世界天文年の登録イベント数も僅かでした。一般の人が天文に触れる機会があまりないのです。私たちの活動によって、その機会を少しでも増やすことができれば、それは意味のあることだと思います。しかし、それは後付けの理由でしかありません。少なくとも私は、星や月が好きだからこのようなイベントをやっているのです。こんなにも綺麗なものがあるということも多くの人に知ってもらいたいだけなのです。だからこそ、私が望遠鏡で入れた月や惑星を見た人が、すごいね、と喜んでくれればそれでいいのです。そして天文に興味を持って、色々なことを知ろうと思ってもらえると、もっといいと思います。個人的には、「今日はいいい天気だね」というのと同じように、「今日はオリオン座がよく見えているね」「今日は金星が綺麗だね」と言われるくらいに、天文が身近なものになったらいいと思っています。

岡村美希